

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871300152
法人名	医療法人 慶尚会
事業所名	グループホーム テレサ
所在地	四国中央市土居町蕪崎167
自己評価作成日	平成 22年 10 月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いのある生活 これを理念に利用者さんと職員が毎日一緒に喜び合い一緒に楽しみあい毎日が穏やかに過ごせる生活を支援していきます。季節感を大切に、屋内の飾りなどを季節に合わせた飾りを利用者さんと作ったり、日々の食卓に季節の食材を使い、春夏秋冬を楽しむ工夫をしています。地域との連携はお祭りの太鼓台の訪問がありました。今年はテレサ祭りの開催ができませんでしたが、地域の交流を図れる行事を持てるように、家族様とも連携を大切にしながら考えていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は管理者の交代が続いたが、キャリアのある管理者により地域でのネットワークの構築も期待できる。医療面では、地域医療を積極的に行う母体病院が隣接しているため、日常的に往診があり安心感が高い。利用者の生活は、医療的ケアでは母体病院、身体・精神面の福祉的ケアはホームが担うことで、双方の専門性をフルに発揮できる体制が整っている。全体的にゆとりをもった設計がなされており、利用者も職員も適度な距離が保つことができゆったりとした時間が流れている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームテレサ

(ユニット名)

1階

記入者(管理者)

氏 名

寺嶋 和子

評価完了日

平成22年10月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) いつでも目に付くところに掲げてあるため認識し意識して毎日のケアに取り組んでいる	
			(外部評価) 笑顔を通して、利用者の生活支援から地域との付き合いを行うことを理念としている。職員の、笑顔という身近ではあるが、普遍的で概念的な理念は意識すればするほどその難しさを実感しているとの言葉には、ホーム全体で、理念の実践に取り組んでいる状態にあることが理解できる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃活動の参加や消毒作業へ参加を行い地域の一員として認識している。又運営推進委員会のかたの尽力でお祭りの太鼓台の訪問や防災、防火についての地域の協力が話し合えた。	
			(外部評価) 運営推進会議の委員から積極的に地域行事やボランティア団体の情報提供があり、地域行事に参加したりホーム行事に参加してもらったりと地域との交流が深まっている。また、自治会活動にも参加し近所と日常生活の中で交流ができるように取り組んでいる。	職員が主として地域行事に参加しており、ホームとしては地域と交流しているが、利用者が地域住民として主体的に参加できるよう支援していけるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議での議題にしているが地域との交流を思索している状態です。キャラバンメイトにもなっているため、地域の支援センターさんとの連携が図れたら活動の範囲が広がるのではと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では報告や意見を頂いている。その中で地域との連携を考えて下さっているが、サービス向上にはお祭りの太鼓台の訪問などが実現しているが、施設内のサービス向上は回を重ねながら取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 管理者の交代が続き、会議はあまり開催されていないが、地域の情報を収集する場として有効に活用され参加者と共に作り上げようとしている。議事録は参加者から意見等のまとめ方に工夫を凝らしている。	不定期だった運営推進会議の開催が、新しい管理者の下で、定期的な開催に向け体制が整い始めている時期である。年間計画等も立案されているため、新たな取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会の委員になっていただき実情やケアサービスの取組みに協力いただいている。	
			(外部評価) 市担当者には、運営推進会議で報告や相談が行われているが、日常的には連絡を取っている関係ではない。管理者の交代などで内部の体制の立て直しに終始していたことも、行政担当者との協力関係の構築ができていない一つの要因でもある。	行政担当者とは、日常的で積極的な関わりが求められる。管理者は長年のキャリアから、地域包括支援センターの職員や福祉関係者とネットワークがあり、今後はそれらを有効に活用し、市担当者だけでなく幅広い関係者と協力関係を構築することが望まれる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組みスタッフ間でも日々のケアについて話し取り組んでいる。意識したケアをしている。	
			(外部評価) 身体拘束については、研修会への参加やホーム内での勉強会などで、職員全員が理解するように取り組んでいる。玄関に施錠をしなくても利用者を見守りやすい構造であるうえ、ホームに隣接している母体病院やデイケアセンターの職員の協力もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止は職員全員がカンファレスなどで再認識しケアを行っている。言葉がけでは傷つけない言葉がけなど職員が意識した行動を取るようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関しては、施設入所のため必要が少なく今後の勉強課題として、周知できるようカンファレスの時などに勉強会を持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用開始前に説明を行う、ゆっくりと説明できる時間を設け、利用者、家族さんとの要望を聞いたり不安に対する質問に応じている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の申し送りノート等を使い、要望、意見等はスタッフ全員が周知、反映するようにしている。利用者の希望や不満に耳を傾け不満解消を皆で取り組んでいる。	
			(外部評価) ホームでは、家族からの意見を聞き取ろうと、意見箱の設置や連絡帳の活用等が行われている。また、管理者の気さくな対応は、家族等が意見を言いやすい雰囲気を作っている。しかし、家族等との話し合いは、管理者が主に行っているため、ホーム全体で家族等の話を傾聴しているとまでは言えない。	利用者の担当職員を決めることにより、職員が積極的に家族等と関わることができる。家族等に利用者の日々の暮らしを伝える役割を職員が担うことで、家族の新たな意見を聞けることもあるため一考願いたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスやスタッフ間のコミュニケーションで考え代表者に伝えている。 (外部評価) 管理者は職員との関係性を向上させるために積極的に話し合う機会をつくり、意見や考え方を聞き取るよう心がけ、共にホームの運営をしているという状態を構築している。運営者には管理者が会議等を通して、職員の意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務帯の変更や勤務状況の報告など事務長、代表者に報告し働きやすい職場作りを考えている。又職員間がお互いに連携を持ち仕事への向上ややりがいになれるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会、カンファレンスなどの参加にする。働きながらのトレーニングには勤務条件に参加できる勤務体制にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修の参加や市内のグループホーム交流会の参加など行っている。参加することで仕事への意欲向上や仕事の取り組み方などに変化が見られる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に要望や不安なことなどの収集を行い、スタッフ間に周知してもらい、本人との信頼関係を築く関係作りに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 開始にあたり、不安なこと、要望などを聞き、問題解 決になれるよう話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ケアプラン作成に当たり入所時の情報と入所後のでき ること、できないことへの見定めを行い、施設の生活 に慣れるよう不安の少ない生活を送れるように支援し ます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 本人の様子観察を行いさりげなく本人の思いを知るこ とに努め思いやりのあるケアを心がける。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時の家族への報告や遠方の方には請求書送付の時 簡単な近況報告を行い家族様との絆を大切にしていま す。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 馴染みの人とは施設入所で家族様や子供さん以外は関 係が薄れている。馴染みの人への関係が保てる方法を 今後どうすればよいか考えたい。家族の協力で馴染み の美容院に行かれたりする方もいる。 (外部評価) ホームでは、利用者の馴染みの場を意識して聞き取る ことに力を入れている。散歩の途中や入浴介助の時に 出てくる言葉から、馴染みの把握に努めている。まだ まだ始まったばかりであるが、新たな発見もある等、 管理者は手ごたえを感じている。	現在は情報の収集をしている段階であり、馴染みの場 所を訪れるなどの実施には至っていないが、ホーム全 体で馴染みの場所が利用者にとって重要であることを 意識した取組は評価でき、早期の実施を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の状態観察や相性などで食卓の位置の配置の工夫などでトラブル回避に努めています。必要に応じ職員が両者を傷つけない仲介役や雰囲気作りをお手伝いします。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院による退所後の家族様の相談に応じ退院後の相談など行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の積み重ねでその思いや行動が把握できるようにしています。本人の訴えや状況により個々に対応している。なかなか本音を出してもらえないこともあります。	
			(外部評価) 利用者の生活歴は、その人の思いを理解するために重要であると意識的に聞き取りを行っている。しかし、せっかく得た情報を申し送り時に話し合ったり、記録も介護日誌に書き込む程度で、伝達手段や記録方法が統一されていない。	現状の伝達手法では、職員全員で共有しているとは言えず、運営者や管理者をはじめ職員全員での共有化を求めたい。また、介護記録に書くだけではせっかくの情報が埋もれてしまうこともあるので、専用の用紙に書きためていく等の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や本人との会話や家族との会話などから情報収集を行い、スタッフ間で共有し生活援助を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人のペースや過ごし方を把握しスタッフ間で個人ノートなどで共有し援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画変更前には本人や家族様とも話し合いそれぞれの意見を取り入れている。又職員の意見も取り入れ、本人がより良く生活できるようなプランを作成している。モニタリングも3ヵ月後と行っている。家族の中には入所がゴールと考え施設任せの方もいて希望などの本音が聞き取りにくい場合もあります。 (外部評価) 管理者と計画作成担当者主導ではあるが、介護計画を見直し等は毎月の会議の中で話し合われている。モニタリングには介護記録が用いられているが、記載内容が必ずしも介護計画に繋がる記述ではないため、職員の主観が強くなる傾向がある。	介護計画を意識した介護記録の記載方法にすることにより、職員間で介護目標が絶えず意識されることになる。また、介護目標を数値化できれば利用者や職員が達成感を感じることができるよう工夫することを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の個人ノートで状態や情報等をスタッフ間で共有し相談や話し合いで対応しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護計画にとらわれず新しいニーズが発生したときは柔軟に対応しながら、計画変更か一時的なものかを見定めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 土居町の童謡唱歌の会の訪問やふれあい委員会さんとの会話など交流を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 敷地内に病院があり、内線で電話が通じるため緊急時 は24時間対応してくれている。 (外部評価) 母体病院が隣接しており往診や受診に便利であること から、多くの利用者のかかりつけ医となっている。専 門的な病院への受診が必要な場合も、母体病院が連絡 を取ることでスムーズに医療的な連携が行えている。 医療面では専門性が高く、安心できるホームである。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者さんの健康状態を相談し、受診や見守りなど健 康管理の相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供や入院中の洗濯介助や訪問などで情 報を交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化の利用者に対しては、家族の意向の確認を行い 代表者である医師と相談し家族が望んでいる入院など の対応を3者で確認しあって、利用者の状況を見ながら 支援している。 (外部評価) ホームは母体病院と連携して利用者の生活を支援して おり、医療的ケアは母体病院が担っている。利用者や 家族等も法人の方針を理解しており、医療ニーズが高 まると生活の基盤が母体病院となることも承知してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 病院の敷地内にあり、緊急時は内線で看護師や医師との電話対応や往診が可能のため、状況観察能力は身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回の防火、防災訓練がある。又新人は最初に消火器の場所や避難路などの説明をしている。地域とは運営推進委員会を通じ避難協力を約束してくれている。 (外部評価) 避難訓練は消防署の協力を仰ぎ、母体病院や隣接しているデイケアセンターと一緒にやっている。運営推進会議でも議題として取り上げ、地域住民と共に災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重しその人の誇りとしているものの把握を職員間で共有しプライバシーを損ねない対応や声かけなどを行っている。 (外部評価) 職員の個性や年齢などにより、声掛けのニュアンスは異なるが、どの職員からも優しさが感じることができる。食後に歌の好きな利用者に「歌って」と職員が言くと、「はいはい」と笑顔で歌い始める利用者からは、大事にしてもらっているという嬉しさが溢れていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定を最優先にケアに取り組んでいる。本人の希望や思いは会話の中で収集しケアにつないでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自立している利用者さんは自分のペースに合わせて生活できているが介護度の高い方は職員ペースになりがちである。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問理容による散髪や毎朝の整髪援助 家族による美容院の利用 服装は自分で選べる人は自分で、選べない人には季節感や好みの洋服を選んであげている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 嗜好品の確認や食事準備に牛蒡ふきやもやしの芽をとってもらったり、食事の準備中に食事に対する季節感のある会話をしている。今年は職員が季節の旬のもの（蕨など）の持ち込みもあり食事中にも季節食べ物を楽しんでもらった。色彩や食欲をそそる工夫 食材の工夫（季節感を大切にするため）工夫をしている。 (外部評価) 家庭的な料理であり、飾り付けにひと手間かける等食事が楽しくなるよう工夫されている。季節を感じる添え物は、利用者に好評である。食事の準備や後片付けの手伝いが難しい利用者が増えているが、職員は利用者のできることをさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量の調整をしたりメニューの工夫や食事量の少ない人には水分補給に気をつけるなどきめ細かく対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声かけやケア用品の準備など行い口腔ケアが行えるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1名の寝たきり者を除きトイレ使用しているが、ズボンの引き上げができない人、汚染に気がつかない人など個別の対応を行いトイレの使用を行っている。リハパン使用で失敗の多い人には居室にリハパンをさりげなく準備して交換を勧めている。 (外部評価) 利用者それぞれの排泄パターンを把握し介護業務表に組み込み、声かけや誘導をしながら自立のための支援を行っている。夜間にも声かけをすることもあるが、安眠を優先させるために、紙おむつやパッドの活用を視野に入れてケア計画を立案している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) できるだけ水分を取るよう勧めたり、便秘時には冷たい牛乳やヨーグルトを飲んでもらったりしている。お薬を服用の人は排便チェックを行いお薬の調整をしている。利用者様の排泄状態の把握しているため、トイレでの排泄を声かけしたりトイレ誘導しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調や気分に合わせて声かけしている。入浴は一人ひとり入浴してもらいその人のペースや好みのお湯の温度を調整しゆったりとリラックスできるよう配慮し入浴してもらっています。(適せん入浴介助や見守りは行っています。) (外部評価) ホームでの生活が長い利用者は、それぞれのリズムがありそれに沿った入浴支援が行われている。新しい利用者には職員との相性やタイミング等を検討しながら、入浴行為がそれぞれの日常生活に、無理なく組み込まれるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様のペースを大切にしている。利用者さんの生活のリズムを把握しているのでその日に眠れない方がいても対応できている。眠れない夜はしばらくお話ししたり日中落ち着かない利用者さんとは散歩に行ったり話したり気分転換を図るよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬の管理は職員がしている。新しく処方された薬は効用、副作用の確認し服用後の状態観察を行い主治医に報告している。また利用者様にも薬の内容など気になる方には説明書を見せて納得してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味活動を通じて得意なことや好きなことを続けてもらったり（塗り絵 習字 折り紙 切り絵）、施設で使う新聞折やチラシでのゴミ箱作りなど楽しみながらしています。又野菜の差し入れなどのときはねぎの仕分けをしてもらったり、ごぼう削りなどお手伝いしてもらっています。気分転換に周辺を散歩したりします。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車での外出はできていない。テレサ周辺は野原が多く季節ごとの花を見に出かけたり、お祭りの太鼓台の見物など行った。敷地内に植えてあるトマトやゴーヤの収穫を一緒に行ったりして収穫の喜びと散歩の楽しさを支援している。 (外部評価) 車いすの利用者が多くなっているため、車での外出は少なくなっているが、散歩や近所への買い物等は頻度を上げるように努めている。玄関前の庭からは、田畑に続く里道に出られ、散歩がしやすい条件に恵まれており、外出支援が行いやすい環境が整っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小銭程度は持った方もいるがほとんどはお金を使う必要がないと思われていて持っていない方がほとんど。家族の希望でお預かりし本人の嗜好品の買い物援助は支援している方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 窓口に電話を置いてあるため、電話を掛けられる方は自由に利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁面に季節に合わせ塗り絵や切り絵などや折り紙で利用者さんと飾り付けを行っている。習字などもはり廊下をと通るたびに喜んでみている。1Fは歌番組の好きな人が多く録画取りした音楽番組を良く見ている。夏は日差しよけのすだれやよしずを居室やフロアに掛けている。 (外部評価) ソファでダイニングとリビングが区切られており、広いスペースを有効に活用している。廊下や洗面スペースなど全体的にゆったりとした設えになっている。来客や関係者がホームに訪れても、利用者と程良い距離を保つことができ、共用の空間でも個人のスペースを確保できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが広くソファにてテレビを見たり会話したりとゆったりと過ごせている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) プライバシーを大切に一人ひとりその人らしい居室となっている。入所時に馴染みの品を持ってきてもらったり、自分の作品を飾ったりと思い思いの居室となっている。 (外部評価) 各部屋に設置されているクローゼットで、どの部屋もすっきりとしている。また、備品としてあるいすやテーブルも利用者がそれぞれに使いこなしている。利用者によって量こそ異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込み、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレがバリアフリーのため車いすでのトイレの使用ができている。廊下に手すりがあり、歩行時に伝い歩きしている方もいる。夜間にPトイレを設置し夜間の転倒防止と排泄の自立が行われている。居室もわかりやすい表札をつけている。おむつの方もトイレ介助を定期的に行い排尿、排便が失敗はあるがトイレを利用している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871300152
法人名	医療法人 慶尚会
事業所名	グループホーム テレサ
所在地	四国中央市土居町蕪崎167
自己評価作成日	平成 22年 10 月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑いのある生活 これを理念に利用者さんと職員が毎日一緒に喜び合い一緒に楽しみあい毎日が穏やかに過ごせる生活を支援していきます。季節感を大切に、屋内の飾りなどを季節に合わせた飾りを利用者さんと作ったり、日々の食卓に季節の食材を使い、春夏秋冬を楽しむ工夫をしています。地域との連携はお祭りの太鼓台の訪問がありました。今年はテレサ祭りの開催ができませんでしたが、地域の交流を図れる行事を持てるように、家族様とも連携を大切にしながら考えていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は管理者の交代が続いたが、キャリアのある管理者により地域でのネットワークの構築も期待できる。医療面では、地域医療を積極的に行う母体病院が隣接しているため、日常的に往診があり安心感が高い。利用者の生活は、医療的ケアでは母体病院、身体・精神面の福祉的ケアはホームが担うことで、双方の専門性をフルに発揮できる体制が整っている。全体的にゆとりをもった設計がなされており、利用者も職員も適度な距離が保つことができゆったりとした時間が流れている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームテレサ

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏 名

寺嶋 和子

評価完了日

平成22年10月27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑」をテレサの理念として職員一人ひとりが日々入居者が笑顔で過ごせるように、心がけている。	
			(外部評価) 笑顔を通して、利用者の生活支援から地域との付き合いを行うことを理念としている。職員の、笑顔という身近ではあるが、普遍的で概念的な理念は意識すればするほどその難しさを実感しているとの言葉には、ホーム全体で、理念の実践に取り組んでいる状態にあることが理解できる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃活動などに参加している。運営推進会議などの委員さんからの助言などを頂き地域との連携を図っている	
			(外部評価) 運営推進会議の委員から積極的に地域行事やボランティア団体の情報提供があり、地域行事に参加したりホーム行事に参加してもらったりと地域との交流が深まっている。また、自治会活動にも参加し近所と日常生活の中で交流ができるように取り組んでいる。	職員が主として地域行事に参加しており、ホームとしては地域と交流しているが、利用者が地域住民として主体的に参加できるよう支援していけるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などで認知症の勉強を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議がなかなか開けない状態であったが、開催にあたり、推進委員さんからの意見を頂き、サービス向上に活かしている。 (外部評価) 管理者の交代が続き、会議はあまり開催されていないが、地域の情報を収集する場として有効に活用され参加者と共に作り上げようとしている。議事録は参加者から意見等のまとめ方に工夫を凝らしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加していただき意見などをもらっている。 (外部評価) 市担当者には、運営推進会議で報告や相談が行われているが、日常的には連絡を取っている関係ではない。管理者の交代などで内部の体制の立て直しに終始していたことも、行政担当者との協力関係の構築ができていない一つの要因でもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員が拘束について認識できているが危険防止もありジレンマもあるが利用者の人権を守りケアに取り組んでいる。 (外部評価) 身体拘束については、研修会への参加やホーム内での勉強会などで、職員全員が理解するように取り組んでいる。玄関に施錠をしなくても利用者を見守りやすい構造であるうえ、ホームに隣接している母体病院やデイケアセンターの職員の協力もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止については個々に認識し、虐待のない介護を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 後見制度については適時勉強しているが、現状では必要とする方が入所していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時に説明納得してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族様の意見は管理者・職員が共有し話し合い運営に反映している。 (外部評価) ホームでは、家族からの意見を聞き取ろうと、意見箱の設置や連絡帳の活用等が行われている。また、管理者の気さくな対応は、家族等が意見を言いやすい雰囲気を作っている。しかし、家族等との話し合いは、管理者が主に行っているため、ホーム全体で家族等の話を傾聴しているとまでは言えない。	利用者の担当職員を決めることにより、職員が積極的に家族等と関わるができる。家族等に利用者の日々の暮らしを伝える役割を職員が担うことで、家族の新たな意見を聞けることもあるため一考願いたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスや職場での意見は随時書類にし代表者に届くようにしたり、直接話し合うなど行い運営に反映させている。 (外部評価) 管理者は職員との関係性を向上させるために積極的に話し合う機会をつくり、意見や考え方を聞き取るよう心がけ、共にホームの運営をしているという状態を構築している。運営者には管理者が会議等を通して、職員の意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎月、勤務表の作成後にテレサの状況説明を行い職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 相互研修を行い互いの活動を通じサービス向上に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修を行い互いの活動を通じサービス向上に取り組んでいる。愛媛県グループホーム協会の加入、四国中央市のグループホーム交流会の参加などで研修参加を行いサービスの向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 常に入居者本人と向かい合い、話し合い本人の気持ちを聞くことを心がけ安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に本人や家族様の思いや希望を聞きケアプランに反映している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時は新しい環境に慣れることを念頭に置き、不安を解消できるように取り組んでいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ともに過ごしてできる活動などを過ごしていただき、人生の先輩として職員も教えられながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族の絆は大切などで訪問時には本人様の近況を伝えたり遠方の人には請求書送付の時短い手紙を送っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) あまり外出できていないのが現状 馴染みの人との交流が少ないためご家族様にも協力をお願いしている。 (外部評価) ホームでは、利用者の馴染みの場を意識して聞き取ることに力を入れている。散歩の途中や入浴介助の時に出てくる言葉から、馴染みの把握に努めている。まだまだ始まったばかりであるが、新たな発見もある等、管理者は手ごたえを感じている。	現在は情報の収集をしている段階であり、馴染みの場所を訪れるなどの実施には至っていないが、ホーム全体で馴染みの場所が利用者にとって重要であることを意識した取組は評価でき、早期の実施を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食卓座席などを配慮し、トラブル防止を行っている。 仲良く過ごせるように職員が話題などの提供を行ったりしトラブル防止を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院による退所はお見舞いなど行いご家族様との関係を保っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に入居者の気持ちを一番に考え本人の意向を尊重し本人らしく生活できるよう話し合い検討している。	
			(外部評価) 利用者の生活歴は、その人の思いを理解するために重要であると意識的に聞き取りを行っている。しかし、せっかく得た情報を申し送り時に話し合ったり、記録も介護日誌に書き込む程度で、伝達手段や記録方法が統一されていない。	現状の伝達手法では、職員全員で共有しているとは言えず、運営者や管理者をはじめ職員全員での共有化を求めたい。また、介護記録に書くだけではせっかくの情報が埋もれてしまうこともあるので、専用の用紙に書きためていく等の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報収集や本人、家族からの情報収集をおこなっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの中で把握に努めている。体調が悪くなったら病院に相談するなど職員同士の話し合いや個人のノート、介護記録などで把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 介護計画は職員全員の意見を聞き作成している。又作 成前にはご家族様の意見、希望を確認している。 (外部評価) 管理者と計画作成担当者主導ではあるが、介護計画を 見直し等は毎月の会議の中で話し合われている。モニ タリングには介護記録が用いられているが、記載内容 が必ずしも介護計画に繋がる記述ではないため、職員 の主観が強くなる傾向がある。	介護計画を意識した介護記録の記載方法にすること により、職員間で介護目標が絶えず意識されることにな る。また、介護目標を数値化できれば利用者や職員が 達成感を感じることができるため工夫することを望み たい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 入居者の個人ノートを作成し個別の記録を行行情報の 共有に勤めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) ADL低下の患者様に対し外来リハビリを利用できる ようにするなど行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 土居町の童謡唱歌の会のボランティア訪問やふれあい委 員さんの毎月の訪問やお祭りには地元の太鼓が来てく れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的なお薬の準備や特変時の対応など対応してくれ ている。急変時は24時間対応してくれている。 (外部評価) 母体病院が隣接しており往診や受診に便利であること から、多くの利用者のかかりつけ医となっている。専 門的な病院への受診が必要な場合も、母体病院が連絡 を取ることでスムーズに医療的な連携が行えている。 医療面では専門性が高く、安心できるホームである。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 受診時に報告、相談している。体調変化は詳しく報告 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供や退院前の情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) レベル低下や体調の変化が見られたときは現況説明と 将来については主治医、家族、テレサでの話し合い家 族が入所者の今後について話し合いを行っている。 (外部評価) ホームは母体病院と連携して利用者の生活を支援して おり、医療的ケアは母体病院が担っている。利用者や 家族等も法人の方針を理解しており、医療ニーズが高 まると生活の基盤が母体病院となることも承知してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生は病院連絡を行い病院がすぐに対応してくれている。バイタルチェックは毎日行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 12月に防火、防災訓練を予定している。地域の人たちへの働きかけは運営推進委員さんの協力で近くの民家の協力を約束してくれている。 (外部評価) 避難訓練は消防署の協力を仰ぎ、母体病院や隣接しているデイクアセンターと一緒にしている。運営推進会議でも議題として取り上げ、地域住民と共に災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、声かけなどに気をつけている。その人に合わせた話し方や接し方を心がけ自尊心の傷つけないような支援を行っている。 (外部評価) 職員の個性や年齢などにより、声掛けのニュアンスは異なるが、どの職員からも優しさが感じることができる。食後に歌の好きな利用者に「歌って」と職員が言くと、「はいはい」と笑顔で歌い始める利用者からは、大事にしてもらっているという嬉しさが溢れていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の中で洋服選びや細かなことなどでも利用者はどうしたいのか声かけして利用者の声を聞き対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の体調などによりペースを大切にしているが重度化している利用者さんには職員のペースになることがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えなど利用者と一緒に選び着替えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きやお茶の用意や食器の片付けなど一人ひとりにあわせできる人にあわせしてもらっているが重度化しているため職員が支援することが多い。 (外部評価) 家庭的な料理であり、飾り付けにひと手間かける等食事が楽しくなるよう工夫されている。季節を感じる添え物は、利用者に好評である。食事の準備や後片付けの手伝いが難しい利用者が増えているが、職員は利用者のできることをさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や栄養バランスは個別に対応している。食事量の少ない人にはカロリーの高いプリンやゼリーなど食べてもらい食事量の低下を防止している。又食器も力のない人には軽い食器など食べやすい工夫をしている。又お粥や刻みなど食事形態にも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄時間の間隔を把握しトイレ誘導を行ったりトイレへの声かけや随時トイレ誘導を行い対応している。寝たきりの人は定期的に時間を決めおむつ交換を行っている。	
			(外部評価) 利用者それぞれの排泄パターンを把握し介護業務表に組み込み、声かけや誘導をしながら自立のための支援を行っている。夜間にも声かけをすることもあるが、安眠を優先させるために、紙おむつやパッドの活用を視野に入れてケア計画を立案している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェックや自然に排泄できるように、冷たい牛乳やヨーグルトや飲んでもらったり廊下を歩いてもらったり工夫している。水分摂取も心がけている。又便秘薬の処方などで対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の都合で日中に入浴させている。曜日も固定せず入浴してもらっているが入浴時はできるだけ楽しめるようにペースは、本人のペースに合わせている。	
			(外部評価) ホームでの生活が長い利用者は、それぞれのリズムがありそれに沿った入浴支援が行われている。新しい利用者には職員との相性やタイミング等を検討しながら、入浴行為がそれぞれの日常生活に、無理なく組み込まれるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間不眠にならないように昼間フロアで過ごしてもらったり、不安や不穏にならないように職員がじっくり話を聞いてあげるなど、不安の除去を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとり服薬が確認できるよう入居者の服薬確認や記録を行い把握ができています。服薬はきちんと服用できているか確認している。症状の変化時は病院に相談し指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干しや洗濯たたみ等の作業はできるだけ依頼しています。入居者の好物はご家族様に相談し持ってきてもらったり、行事食や普段にもメニューとして取り入れています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の重度化で外出行事ができない。近くの散歩など程度。家族様の協力で外出してもらっている。 (外部評価) 車いすの利用者が多くなっているため、車での外出は少なくなっているが、散歩や近所への買い物等は頻度を上げるように努めている。玄関前の庭からは、田畑に続く里道に出られ、散歩がしやすい条件に恵まれており、外出支援が行いやすい環境が整っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 重度化しており、外出の機会もなくお金を使う機会がない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば電話をかける支援は行っている。手紙などの投函も協力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夏場日射しよけによしやすだれなどフロアは随時ブラインドの開け閉めを調節したり、鏡を嫌う人のために飾りをつけ不快感のないように飾りつけしたり、レクリエーションで作った壁画作りなど行っている。	
			(外部評価) ソファでダイニングとリビングが区切られており、広いスペースを有効に活用している。廊下や洗面スペースなど全体的にゆったりとした設えになっている。来客や関係者がホームに訪れても、利用者と程良い距離を保つことができ、共用の空間でも個人のスペースを確保できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) みんなでお話する時は食卓で、又フロアのソファでのくつろぎなど随時楽しめる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで家で使った家具や写真を飾ったり、仏壇を持ってきたりしている方もある。	
			(外部評価) 各部屋に設置されているクローゼットで、どの部屋もすっきりとしている。また、備品としてあるいすやテーブルも利用者がそれぞれに使いこなしている。利用者によって量こそ異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込み、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの表示や居室の名札などに工夫している。バリアフリーのため車椅子の自走ができています。	